インドネシア・ベンクルのラジオゾンデ集中観測による大気重力波の研究
A study of gravity wave activities based on intensive radiosonde observations at Bengkulu during YMC-Sumatra 2017

*木下 武也¹，城岡 竜一¹，鈴木 順子¹，荻野 慎也¹，岩崎 杉紀²，米山 邦夫¹
*Takenari Kinoshita¹, Ryuichi Shirooka¹, Junko Suzuki¹, Shin-Ya Ogino¹, Suginori Iwasaki², Kunio Yoneyama¹

1. 海洋研究開発機構、2. 防衛大学校
1. Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, 2. National Defense Academy

大気重力波は対流活動や山岳、ジェット前線システム等局所的な領域で発生し、熱帯成層圏の準2年振動や中層大気大循環を駆動する上で重要と考えられている。しかし、重力波は時空間スケールの幅が広く大気中のむく所に存在するため、その特性や強度、重力波の駆動する子午面輸送の水平構造など、まだ未解明な部分が多い。本研究の目的は、熱帯域の重力波活動により駆動される力学的な物質輸送の3次元構造を明らかにすることである。昨年より、インドネシアを含む海大陸域ではYears of Maritime Continent-Sumatra (YMC-Sumatara) 2017キャンペーンにより集中観測が行われている。本発表では2017年12月インドネシア・ベンクルでのラジオゾンデ集中観測データを用し、重力波活動とそれに伴うオゾンの鉛直構造について解析した結果を報告する。

キーワード：重力波、子午面循環
Keywords: gravity wave, meridional circulation